

6月2日



1: 端々しく繊細な花模様が南桂子の作品にも通じるところ。材料や道具が整然と準備され、どんなノートができるのかわくわくしますね。



2: 道具の正確な使い方をはじめ、一つ一つの行程に丁寧なレクチャーがあります。「見る時は見る、作業する時は作業する」ことが大切。



4: 折ったり貼ったり表紙の準備を終え、糸で綴じていきます。重なる紙の穴に糸を通すのは案外大変な作業で、コツを掴むまで四苦八苦の方も。



3: 南桂子の作品に囲まれた会場で黙々と作業を進める参加者の皆さん。手を動かすことに夢中になれる、貴重なひとときかもしれません。

## 『ツヴィンゲノート』

「Zwillinge(ツヴィンゲ)」の「Z」の形をしたノートです。表紙にはツヴィンゲ定番の花模様を使い、チェーンステッチやラインステッチで綴じます。工夫次第で便利に使える、一本の糸で綴じたツヴィンゲノートは実用的で楽しい一冊。



5: まるで色とりどりの花畠のような素敵なお手本が完成しました。太めの糸で綴じたチェーンステッチの色がアクセントになって、ジグザクの形もユニークです。「もったいなくて使えないです」と感激の声でお持ち帰りいただきました。

南桂子展  
船の旅  
- 南桂子の詩と童話と版画の世界 -



## 美術館通信

No. 17

### ワークショップ “つくる楽しみ” 「染め紙でつくる、特別なノート」

講師：ツヴィンゲ [寺園直子／森住香]

ツヴィンゲのお二人に、南桂子の詩や童話からイメージした紙を染めていただきました。その染め紙を使用してノートをつくるワークショップを全4回開催しました。内容の一部をご紹介いたします。

関連イベント

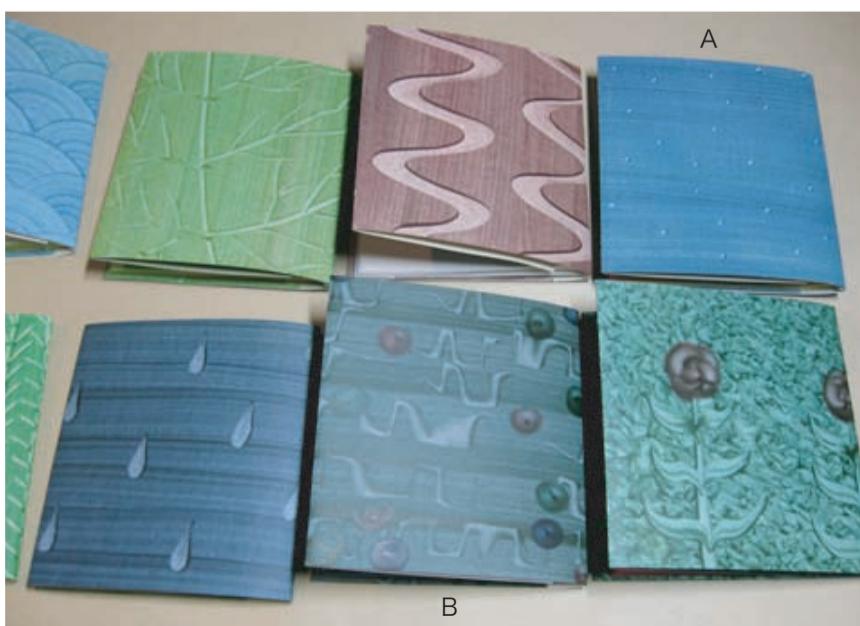


オリジナルの美しい染め紙  
「クライスター・パピア」を使用した文房具の制作を手がける双子姉妹のユニット  
『Zwillinge(ツヴィンゲ)』

(写真左:森住香さん、右:寺園直子さん)。詳しい活動内容はHP↓をご覧下さい。  
<http://www.zwillinge.jp/>

6月23日

三つの穴をあけ一本の糸で綴じる「三つ目綴じ」は普遍的で合理的な、糸綴じの基本。知っておけば本当に役に立ちます。表紙にツヴィンゲオリジナルの紙を使用したシンプルで美しいノートを、大・小2つのサイズで作ります。



5: 「船の旅」第七章 “チラチラ雪のふる” 場面からは A の模様、“赤、青、緑の豆電燈がついている” 場面からは B の模様がうまれたそうです。南桂子作品のワンシーンが、ツヴィンゲさんの染紙と、参加者の手によって、特別なノートに仕上りました。

## 『染め紙ノート』



2: 糸通す穴をあけます。製本は「慎重になるとこころと、神経質にならず思い切って進めるところのメリハリをもって」と講師のアドバイス。



4: 糸で綴じた後は、最後にヘラを使って縫い目を整えたり、端や折り目をもう一度しっかりと押さえたりすることで、より美しく仕上ります。



1: こちらの紙は、展示中の南桂子の詩「船の旅」の第六章 “砂漠でスフィンクスが涙をこぼす” 場面からイメージが膨らんで染めた模様だそう。



3: 中面にカラフルなトレーシングペーパー「クロマティコ」を挟みます。選んだ柄や糸の組み合せに個性が表れるのが手作りの醍醐味。

2012年6月：ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション